

# 1. 聖書

1. 旧約（キリスト前）ヘブライ語 新約（キリスト後）ギリシャ語  
紀元前1500年ごろ～紀元後100年ごろ 約40名の著者
2. 啓示の宗教《上から下へ》 探求の宗教《下から上》
3. 神が用いられる方法は？ 言葉と文字 書卷
4. 神からの本4つの条件
  - 1) 著者は神 ペテロ第二1:21 「神は言われる」2000回以上
  - 2) 高い道德性
  - 3) 普遍性 毎年1900万冊 2212言語に翻訳
  - 4) 世の始まりと世の終わり 創世記 黙示録
  - 5) 人生の意味 コリント第一10:31
5. 目的 人類の救い ヨハネ20:31 イエス・キリスト ヨハネ5:39  
善と悪の大争闘 ローマ3:26
6. 一貫性
7. 不変性 ペテロ第一1:23
8. 永遠性 ペテロ第一1:24
9. 史実性 イザヤ55:11
10. 預言の成就（実現）エゼキエル26:3～5
11. 影響力 テモテ第二3:16 ヘブル4:12
12. 最も優れた心の栄養 使徒20:32 真空の原則

「どんな賢明な者でも、どんな霊的な心を持った者でも、受ける時にのみ与えることができる。彼らは自分自身で魂の必要を何一つ満たすことができない。キリストから受けるものだけを与えることができる」（『各時代の希望』中113）。

「正典 (Canon) 問題」と呼ばれています。つまり、靈感を受けて書かれた書はどれか、どこまでが聖書に含まれるべきか、という問題です。これについては、カトリックとプロテスタントの理解は異なります。カトリックは、いわゆる「外典 (アポクリファ)」も正典の中に含めます。その理由は、七十人訳聖書 (ヘブル語聖書のギリシア語訳、前 3~1 世紀) に外典が含まれていたからです。それに対して、プロテスタントは、旧約聖書 39 卷、新改訳 27 卷、計 66 卷のみを正典と認めています。

旧約聖書の正典化の過程は、新約聖書ほど難しいものではありませんでした。①前 4 世紀ごろには、ユダヤ人の中では、今の 39 卷が正典として認識されるようになっていました。ちなみに、現存する最古の写本は、前 1 世紀前後に書かれた死海写本です。②イエス・キリストもまた、当時のユダヤ人たちの判断を認定されました。「わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためにではなく、成就するために来たのです」(マタ 5:17)。③どの書が外典であるかに関しては、紀元 250 年頃には、ほぼ意見の一致が見られました。外典の理解に関しては、今も若干の論争はありますが、通常は、外典は普通の歴史的な文書であるとされます。つまり、正典ではないが、当時の状況に光を当てる歴史的情報としての価値はあるということです。

新約聖書の正典化は、旧約聖書の場合よりも複雑です。

(1) 初期の信者たちの認識を見てみましょう。①ペテロはパウロの手紙に権威を認めています (2 ペテ 3:15~16)。②パウロの手紙は、諸教会に回覧されていました (コロ 4:16、1 テサ 5:27 など)。その権威が認められていた証拠です。

(2) 次に、教会教父たちの認識を見てみましょう。①ヒッポリュトス (Hippolytus) (紀元 170~235 年) は、22 卷を、靈感を受けた書として認識していました。②正典に含めるべきかどうかで論争のあった 5 卷は、次のものです。ヘブル人への手紙、ヤコブの手紙、ペテロの手紙第二、ヨハネの手紙第二と第三。

(3) その後、ヒッポ会議 (393 年)、カルタゴ会議 (397 年) によって、現在の 27 卷が新約聖書の正典として認定されます。認定の規準は、以下のようなものです。①著者は、使徒か、使徒と関係の深かった人か。②教会全体から受け入れられているか。③正統的な教理や教えと矛盾しないか。④聖霊による靈感を感じさせる霊的、倫理的価値を含んでいるか。

(4) ここで注意すべきは、正典の範囲を教会会議で決定したということではないという点です。そうではなくて、信者たちがすでに正典として認識していたものを、教会会議で正式に確認しただけのことです。正典化の過程に神の守りと導きがあったことは明らかです。

いつの時代にも、神の権威を認めない者はいます。不信者の声に耳を傾けるのではなく、正典化の過程で働いた神の守りと導きを認め、安心して聖書を開いてください。